

第1回のなかまづくり研修会。

2分×14人=28分かかるやん！ということに、始まってから気付いてすみませんでした。

話し合う時間が十分とれなかったのですが、話題にあがったことを書いておくので、それをまた話題にして職員室で話をしましょう。

低学年

- ・関わる機会の保障をしていく。
- ・外国籍の児童に対する見方は地域や保護者から伝わっていることがある。
→通信などで啓発・伝えることもしていくが、子どもをかえることが一番。子どもがかわれば、大人もかわる。
- ・「自分」を出せる子にしていきたい。
→そのためには受け入れるまわりを育てる必要がある。

高学年

- ・自分のおもいを言えない、トラブルを避ける⇒関わらない子どもの姿が気になる
4年生・・・表現する必要を感じない子ども
5年生・・・表現できるが、自分のおもいを通そうとする言い方になってしまう
6年生・・・相手のことを考えて言える姿もある

段階的に

おもいを表現する⇒伝えるためにどんな言い方をすればいいかを考える

「言わないでおこう」ではなく、「今は言わないでおこう」と相手を考える力をつけていく。

そのために

表現しなければいけない状況をどんどん与えていくことで、学ばせることが必要。

「行動がかわるような状況をつくる」「状況をかえることで行動がかわる」と、全体研で岡野先生がおっしゃられたことが、なかまづくりにも当てはまるのではないのでしょうか。

クラスの現状、子どもたちの課題からどんな行動が望ましいのか、そのためにどんな状況を与え、力をつけていくのかを考え、日々なかまづくりをしていきましょう。

人権教育ガイドラインより

Q. なかまづくりとは、どんな取組なのでしょう？

A. なかまづくりとは、不安や悩み、生きづらさ等を出し合い、支え合い、高めあうことができるとともに、身のまわりの人権問題について共に考え、解決しようとする関係をつくり、その中で、一人ひとりの成長と自立を図る取組です。

(そのために何をすればいいのか等、詳しくはまた冊子を読んでみてください。)